

第64号

平成23 (2011) 年12月25日

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042 広島国泰寺高等学校内

鯉城同窓会

電話 (082) 241-9777 FAX (082) 248-7341

E-mail rijo@orion.ocn.ne.jp

URL http://www.rijo.gr.jp

鯉 城



完成イメージ図

五林茂典 (昭和 36 年卒) 制作

待望の同窓会館建設へ 年内着工目指すも未定

長年の懸案だった鯉城同窓会館(仮称)の建設が決まった。同窓会としては二〇一二(平成24)年中の着工を目指すのが、母校で進められている校舎耐震工事との絡みもあって、時期がどうなるかは未定。工期は半年程度を見込んでいます。

建設予定地は、母校敷地の北東部のプール跡地で、広さ約265平方メートル。建物は鉄筋コンクリート造り2階建て。

1階に玄関ホールや大会議室、倉庫など、2階には同窓会事務局や資料室、中会議室などを設ける。延べ床面積は約471平方メートル。かつての募金による1億円弱の基金のうち、約7500万円を建設費に充てる。

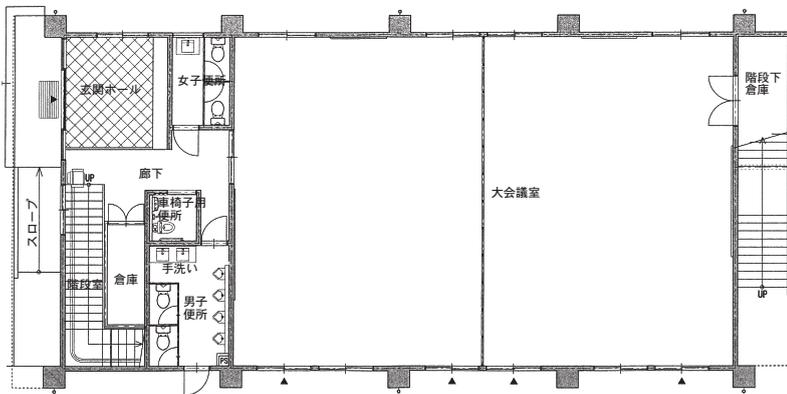
完成後は、これまで母校校舎に間借り状態だった同窓会事務局の機能をここに移し、事務連絡や会議室として使用するほか、会員の親睦の場、同窓会関連の膨大な資料類の保管、現役高校生クラブ活動の場など母校の支援のため活用する。建設後は、会館を建設した大半の他校と同じく、施設を広島県に寄付する。

会館を建設しようという声は、20年以上前からあり、何度も議論されてきた。「事務局のスペースが手狭」「県内の主な高校の大半に、同窓会の専用施設がある」などの理由だったが、敷地や資金の課題もあり、そのたびに立ち消えになっていた。

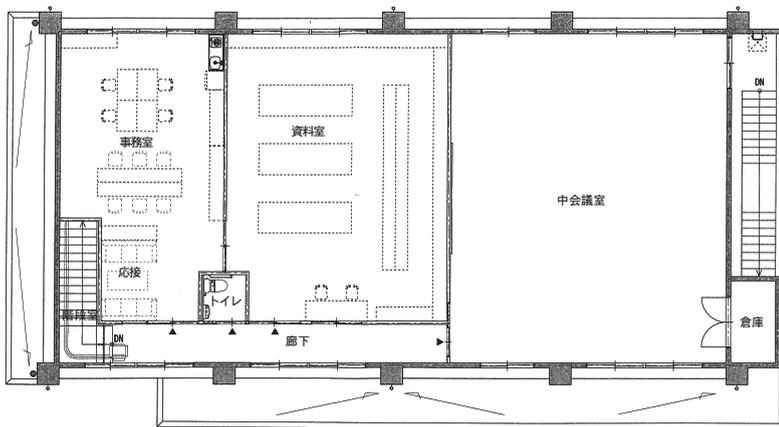
平成9年の母校創立120周年を前に、同窓会館建設への機運がさらに高まり、建設計画を視野に入れながら、それまでの基金約5000万円を1億円に増額する案が幹事会で決定された。その後の募金活動などで目標額にほぼ漕ぎつけたまま、現在に至っている。

そういう経緯を踏まえて、昨年から母校の天下隆司校長の全面的な協力を得ながら「同窓会館建設検討特別委員会」が設置され、八木忠士会

鯉城同窓会館 平面図 (1階)



鯉城同窓会館 平面図 (2階)



長を中心に建設の可否を含めて議論を重ねてきた。賛成意見だけでなく「この時期にハコ物でもあるまい」「基金の有効な活用方法は、ほかにあるのでは？」などの厳しい声や意見も出たが、今年に入って3回にわたって開かれた役員会をはじめ、最高議決機関である幹事会で多数の支持を得て、最終的に承認された。

広島県内の公立高校は約100校。そのうち福山市の誠之館、呉市の三津田など伝統校の多くが、母校の敷地内に独立した同窓会館を建設している。

広島市内の旧公立5校の場合、観音、皆実、基町は敷地内に会館があり、舟入は校外に事務局(室)を確保している。

他校の会館視察も 八木会長らが比較検討

同窓会館の建設論議に先立ち、同窓会の八木忠士会長ら役員有志は、広島市や呉市、福山市の高校の同窓会館を視察したり、資料を取り寄せるなど比較検討を重ね、役員会

や幹事会でその内容を報告した。

その中から本校と同様の伝統校である広島皆実、呉三津田、福山誠之館の3校の事例を紹介する。

皆実は、同校の前身である

旧広島県立第一女学校と皆実の両同窓会が協力して募金し、一九七二(昭和46)年四月、母校敷地内に「皆実有朋同窓会館」を建設した。鉄筋2階建て、延べ床面積292平方メートル。1階に食堂、売店、トイレが設けられ、2階には同窓会事務室、会議室として使える和室2部屋、風呂、トイレがある。建築費は約

1200万円だが、備品類を含めた総工費は約1650万円。

三津田の「三津田ヶ丘会館」は母校の正門横に建つ。鉄筋コンクリート2階建てで床面積は計274平方メートル。一九九一(平成3)年5月に起工し同年11月に完成した。建築費は8200万円。前身の旧制中学校などを含めた同窓生の寄付でまかなった。

誠之館の場合、二〇〇〇(平成12)年11月、県の費用で鉄筋3階建ての会館を建設した。旧藩校の伝統を踏まえて、歴史的な資料類を集めた収蔵庫を併設。事務局のある2階は260平方メートルで、収蔵庫を含めて4部屋ある。国の文化財などもあることから、他校の会館建設の事例とは、少し事情が違うようだ。



広島皆実の同窓会館



呉三津田の同窓会館

心安らぐ同窓生の集い 会館は「絆」深めるシンボル

八木会長総会で



八木忠士 会長

開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。今年も鯉城東京同窓会、岡田会長を始め多くの同窓の方がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。

今年3月11日、東日本大震災による未曾有の災害、又それに伴う原発問題、そして台風12号、14号での被害と続き、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

同窓の皆様方も多く被災されたとお聞き致しております。あらためて、お見舞い申し上げます。尚、今回の被災に対して、同窓会から50万円の義援金を致しましたことをご報告致します。

政治、経済、社会問題等非常に不透明感、不安感、閉塞感漂う昨今ではありますが、この同窓生の集いは「心のホット」する時(瞬間)だと思えます。又今年は昭和36年卒業の皆さんは、

卒業50年目の節目になります。おめでとうございます。

今年度も多くの同窓の皆さんが各分野で活躍されました。皆様の活躍に対し、心より敬意を表すものであります。

又、本日は、ご来賓として、母校より大下校長様を始め、多くの教職員の皆様、東京鯉城同窓会より松尾会長様、関西鯉城同窓会からは吉川会長様を始め多くの同窓の皆様にご出席頂いております。

ここで少しお時間を頂き、この1年を簡単に振り返りたいと思えます。

同窓会活動の大きな柱となつ

平成23年度、各種の賞を受章された同窓生の方々は11月19日の総会で顕彰した。
《叙勲・褒章関係》
▽瑞宝中綬章(学校教育功労) 昭和24年⑤卒
Ⅱ 梶川良一
▽瑞宝中綬章(学校教育功労) 昭和24年⑤卒 Ⅱ 西谷弘信
▽瑞宝小綬章(警察業務功労) 昭和24年⑤卒 Ⅱ 森野恒則

鯉城蹴球団100周年で特別表彰

鯉城蹴球団会長

昭和33年卒 Ⅱ 津田祐吏
▽瑞宝小綬章(防衛功労) 昭和33年卒 Ⅱ 山縣秀雄
▽瑞宝双光章(更生保護功労) 昭和34年卒 Ⅱ 竹本博光

昭和49年卒 Ⅱ 渡部公磨
《花束贈呈》
▽母校への貢献・二木会の皆勤 等 昭和7年卒 Ⅱ 山崎芳樹

た。

特に、本年は同窓会館についての建設の是非等について、検討委員会を設置し精力的に検討を進めて参りました。

検討結果に付きましては、後ほど詳しくご報告致します。

7月24日、恒例の一中死没者慰霊祭を、ご遺族が年々減少する中、今年も母校の協力を頂き、一中遺族会と合同で執り行いました。当日は、遺族、同窓生、教職員、在校生等約270名の参列者がありました。

次に、同窓会誌「鯉城」を年1回発行致しております。

最近は、投稿も多く、今後共、更に内容の充実に努めて行きたいと思えます。

次に、同窓生の各分野での活動に対し、顕彰並びに特別表彰を致しておりますが、今年はず年の野球部120周年に続いて、鯉

城蹴球団100周年での企画(記念誌他)・運営等

《感謝状》
▽鯉城蹴球団創部100周年での企画(記念誌他)・運営等

▽瑞宝重光章(裁判業務功労) 昭和35年卒 Ⅱ 原田和徳

▽瑞宝単光章(警察業務功労) 昭和27年定卒 Ⅱ 前田五郎

▽瑞宝双光章(学校教育功労) 昭和32年卒 Ⅱ 梶矢文昭

▽旭日双光章(地方自治功労) 昭和32年卒 Ⅱ 梶矢文昭

▽瑞宝単光章(警察業務功労) 昭和27年定卒 Ⅱ 前田五郎

▽瑞宝双光章(更生保護功労) 昭和34年卒 Ⅱ 竹本博光

▽瑞宝小綬章(防衛功労) 昭和33年卒 Ⅱ 山縣秀雄

▽瑞宝重光章(裁判業務功労) 昭和35年卒 Ⅱ 原田和徳

城蹴球団(サッカー部)が創部100周年を迎えられ、特別表彰を行いたいと思えます。

母校への支援活動ですが、一つは母校の社会教育の一環として、同窓生在籍企業を中心に、「1年生による企業職場訪問」を実施致しました。

一つ目も、恒例になりました「OB講演会」を実施いたしました。

二つ目も、恒例になりました「OB講演会」を実施いたしました。

最後に、今年一番大きな課題でありました同窓会館の建設についてご報告を致します。

この問題は、長年の懸案でありましたが、今回、県教育委員会、学校当局のご理解を頂き、建設検討委員会、役員会、各期代表幹事会の検討、審議の結果、建設を致すことに致しました。

場所は母校校内、建設資金は過去、会館建設等で基金として積み立てておりました中から八〇〇万円を取り崩し、新たに同窓生の皆さんからの募金は考えておりません。

この会館が、同窓の皆さん同士又母校との「絆」をより強めるシンボルとなれば幸いです。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

最後に、今後共、皆さんのご協力、ご支援を心よりお願いし開会の挨拶と致します。

鯉城蹴球団 100周年迎える

OBや来賓450人 岡田武史氏が記念講演

全国制覇3度 HFに誇りと愛着

3度の全国制覇を誇る本校サッカー部が産声を上げて百年を迎えた。OB組織である鯉城蹴球団の百周年記念式典は11月26日、広島市内のホテルで、一世紀の長い歴史に感慨を新たにした。「鯉城蹴球団百年誌」も発刊した。

記念式典は物故者の追悼で開会した。遠く明治、大正期の先達や式典直前の10月12日に亡くなった元日本代表GK、渡部英磨さん（昭和17

年卒）ら多くの先輩、同僚たちのめい福を祈った。鯉城蹴球団の渡部公磨会長は「長い間に築かれた絆を深めたい」とあいさつ。来賓の大江隆司母体校長、森嶋勝也県教委スポーツ振興課長、日本サッカー協会の大仁邦弥副会長が祝辞を寄せた。旧制広島中、広島一中、鯉城高、国

泰寺高を通じて連綿とつながる「HF」の偉業をたたえた。「スポーツの本質は選手が自発的に行動することから始まる」「監督の仕事は無心の状態で決断すること」「自らの遺伝子にスイッチを入れよう」「目標を定め、本気でチャレンジすることが大切」など示唆に富む発言を繰り返した。現役の国泰寺高校サッカー部員53人や保護者、鯉城蹴球団メンバーら約450人に感銘を与えた。

式典のメイン行事は、サッカー日本代表の岡田武史前監督による講演「ワールドカップを振り返って」。オシム監督の急病を受けて急きよ2度目の起用となり、二〇一〇年ワールドカップ南アフリカ大会で日本代表をベスト16へ率いた経緯、監督としての悩み、決断の背景などを1時間半にわたって披露した。「HF魂が引き継がれた。広島一中、国泰寺（鯉城）高サッカー部は一九三六（昭和11）年、三九（同14）年、五九（同24）年に全国中等（高校）選手権優勝に輝いている。日本サッカー協会第4代会長の野津謙氏（大正5年卒）ら多くの人材を送り出し、日本代表には15選手が名前を連ねた。

かつての名場面を再現したDVD映像や応援団OB有志の演武なども交え、和やかな雰囲気にも包まれた。歴代指導者も駆け付けて、盛んな拍手を浴びた。参加者は昭和17年の卒業生から平成23年に巣立った若者まで集った。いずれも「HF」のユニホームに誇りと愛着を持つ。百年の歴史の重みをかみしめながら歓談が続いた。母校サッカー部は一九二一（明治44年）年、旧制広島中に数学の松本寛次教諭が赴任し、サッカー指導をしたことが起源。翌年（大正元年）蹴球部が発足した。広島県内の旧制中学では当初からパイオニアを自任。一貫して「県中頑張りズム」を発揮し、後には「粘りの国泰寺」として後輩たちにHF魂が引き継がれた。



記念式典であいさつする鯉城蹴球団の渡部会長



ワールドカップの思い出を語る日本代表の岡田前監督

同日の記念式典は中国新聞、広島テレビが報道した。昭和45年卒 渡辺勇一

栄光や苦難の歩み克明に 100年誌

▽草創期

一九一（明治44）年、東京高等師範学校で蹴球部キャプテンだった松本寛次が広島中の弘瀬時治校長の求めに応じて赴任、校庭にゴールポストを建てた。一二年、正式に蹴球部が発足した。ユニホームの「HF」は「広島フットボール」を意味し、一四（大正3）年、初の神戸遠征に備えて制定した。

一九（同8）年、二一（同10）年と神戸高商主催の関西



胸にHFのマークを付けた大正4年の部員

大会で優勝、広島高師主催の大会では負け知らずだった。

現役、OBで編成した鯉城蹴球団は二五（大正13）、二六（同14）年の明治神宮大会で2連勝した。

▽昭和初期

今に至る全国高校サッカー選手権は一九八七（大正7）年に始まった。本校は二六（昭和元）年の第9回大会から参加した。地区予選を経て毎年のように全国上位に進出した。初優勝は三六（昭和11）年、



昭和11年の優勝イレブン

8度目の出場、4度目の決勝で遂に頂点に立った。3年後の三九（同14）年には2回目の全国制覇を果たし「広島一中強し」を印象付けた。

▽戦後
原爆で多数の犠牲者を出し、校舎も焼失。しかし、HF魂は不変だった。一九四八（昭和23）年学制改革で「鯉城」の校名となったが、翌年正月の第27回大会で3度目の優勝を飾った。

五一（同26）年、広島国体



全国制覇を遂げた昭和11年の部員

の会場は母校グラウンドだった。HFはここでも準決勝に進出した。
五五（同30）年には神奈川国体に出場し2回戦で惜敗した。

▽苦難

戦前からのライバル広大付、修道に加え、山陽、舟入、広島工、広島市商など広島高校サッカー界は相次いで強豪が誕生した。昭和30年以降、古豪国泰寺は苦難が続いた。

それでも一九六六（昭和41）年の最初のインターハイに名乗りを上げ、七一（46）年度の全国選手権では22年ぶりに白星を挙げた。昭和50年代後半には5年連続で選手権



鯉城高の校名で全国優勝した昭和24年の選手たち

県予選の決勝で広島工に敗れる悲運も。

▽平成

夏のインターハイは一九八七（昭和62）年、冬の全国選手権は九〇（平成2）年度が最後の出場となった。以後、全国の舞台へ進むことはできない。

しかし、好不調を繰り返しながら本校サッカー部は粘りを発揮している。近年、県下でベスト4、ベスト8の常連校としてその名を残す。二〇一一（平成23）年は5年ぶりにプリンスリーグ中国（2部）で上位争いを演じ、国泰寺復活の兆しをうかがわしている。



平成2年度の全国選手権でシュートする播本（対金沢戦）

昭和58年卒 青野 孝

「親子2代で主将」のタイトルで、夏の全国高等学校野球選手権広島県大会での記事として、朝日新聞で取り上げて頂いたのですが、親子2代で昭和57年と平成23年に、国泰寺高校野球部の主将を務めさせて頂いたことは、本当に光栄なことと思います。

さらにこの夏2試合、息子はグラウンドで私はスタンドで、いっしょに校歌を歌えたことは、最高の思い出となりました。

息子は入学当初、「学習課題が多く野球をする時間が無い、他の高校に行けばよかった」とまで、言っていました



現在のユニフォーム(上)と昭和後半世代のユニフォーム(下)

た。国泰寺高校への進学について、親の思いを押しつけたのは間違っていたのかと思われました。夏の大会が終わわり、息子に国泰寺高校で良かったか?と聞いてみると、「国泰寺高校で本当に良かった、大学でも野球をやりたい」と、嬉しい返事が戻ってきました。

国泰寺高校の素晴らしい卒業してから同窓会、OB会に触れ改めて感じるものがあり、息子も私と同様に近い将来実感するものと思います。最後に野球部を応援して頂いた同窓会の皆様に、保護者を代表してお礼を申し上げます。

親子2代で野球部キャプテン

野球部OB 頑張ってます

小学生ソフト監督 全国大会へ

昭和62年卒 池田 昌樹
6月19日御調球場において、私が監督を務める落合ソフトボールクラブが全国大会初出場を決めました。当日、小雨まじりの曇り空ではありましたが、勝利を重ねていくにつれ、子供達の気持ちと同様、空も晴れていったように感じます。

思い起こせば、今年度の新チーム結成時に決めた目標は『全国大会出場』今、考える

と何も根拠のない無謀な目標だったと思います。その根拠のない目標に、子供達は疑うことなく練習に励みました。ときに厳しく、ときに厳しく(笑) どんな大会で優勝しよう、あくまで目標は全国大会。子供達は一切気を緩めることなく練習に励みました。そして運命の日、子供達は不可能とも思われた目標を達成。みごとと言うしかありませんでした。しかしそれを達

成できたのは、これまでの諸先輩部員の功績、保護者の皆様の多大なるご協力、そして地域の皆様の暖かいご支援があったからこそです。本当に感謝しております。ありがとうございます。 次の舞台は夢にまで見た全国大会。全国の強豪が集まる大会であり、簡単には勝たせてくれません。しかし、ここまで来たなら目標は日本一。日本一を決める舞台に立つ以上それを誇りに感じ、新たな無謀な目標に向かってチーム一丸となって進んでいこうと思っております。皆様、これからも変わらぬご支援よろしくお願い致します。



全国大会初出場を決めた落合ソフトボールクラブ

鯉城関西同窓会総会

3月11日(日)
開催 11:00

ホテル大阪ベイタワー
(旧)三井アーバンホテル

中 平成**24**年度 

総会

日時 **11月17日(土) 17:00**
場所 リーガロイヤルホテル広島
当番幹事 平成元年卒業生

鯉城東京同窓会総会

5月9日(水)
開催 18:30

(財)水交会 東郷記念館



在校生を前に「日本を変えていくという夢を持ってほしい」と語る貞末さん

10月28日、OB講演会が開かれた。今年、昭和34年卒業後、VANジャケットに入社後倒産、その後次々に転職しながらも、平成5年53才になって純国産・高品質・低価格にこだわりのある「メーカーズシャツ鎌倉」を起業された貞末良雄氏にお越しいただいた。

不運にも負けない不屈の精神力に裏打ちされた貞末氏の「商道」は、世界の繊維業界の中で生き残りをかけた、一途な日本人の誇りを教えてくれる講演だった。

講演の要旨は次の通り。

未来は一足飛びには来ない。しかし過去に戻ることは出来る。時は、誰にも平等にある。有効に使うか使わない

来が切り開けて行く。自己実現は、すばらしい瞬間、すばらしい現在の積み重ねで出来る。

高校一年生の時、哲学の授業がなくなった。これは、ものを考えることを奪ったのではないか。人の意見を丸呑みにするようになった。情報があふれて自ら考えることをし

みをしたくないといけない。一浪の末、大学に入り、卒業が認められて、東京の小さな町工場に就職した。そこで、何年も経験を積んで、す

にも商人の血が流れている。父親の紹介でVANジャケットに入社した。VANは、日本の復興のため日本人の服装を見直そうとしていた。英語が少々出来なくても服装で相手を説得出来た。社会に出て、本当に戦う時は、相手がどの様に自分を評価しているかが大切だ。

37才の時に、VANが倒産した。会社は倒産するもの、サラリーマンにならず、商人になろうと思った。ヤオハンに入社。ある道場を紹介され、10日間で「感謝」

事を考えて努力すれば、人は動いてくれる。次々に転職した。気がつく

と53才。残りいくばくもない。だが、やり残した事は多い。商人には道がある。道を究めて倒産しない会社を作ろう、独立を決意した。平成5年、鎌倉市のコンビニの2階を借りて、小さなシャツ専門店「メーカーズシャツ鎌倉」を開業した。商品には自信があつたが、開店当初は、売り上げゼロの毎日だった。しかしながら、シャツを買ったお客さんの口コミや、雑誌に取り上げられると、売り上げは急伸し、半年後にはお店の前列が出来た。一〇万着売れば給料が入るだろう、それまでは、どんな努力も惜しむことなく、パンと牛乳で辛抱した。こうして現在、年間六十万着売れる会社になった。

安い物が外国からどんどん入っているが、高級品が作れるのは日本しか残っていない。

これから、皆さんは悪徳と不正に満ちた社会に出て行かれるが、若き日の情熱と正義感を思い出して、日本を変えて行くという夢を持ってほしい。将来を楽しみにしている。

OB講演会

不屈の精神53歳で起業

「メーカーズシャツ鎌倉」代表 昭和34年卒 貞末良雄

沢山の過去を持つと未来が開ける

かは自分次第。人は生まれて生きて死ぬ。生と死は、(自殺以外)自分で決められない。しかし、生きている時間は、自分の意志、責任で良い事も悪い事も、幸も不幸も決められる。沢山の過去を持つと未

ごい仕事をしている中卒の人が(まだまだ半人前の)自分より少ない給料で働いていることを知り、彼らに恥ずかしくない人になろうと思った。学校の知識だけでは世の中は渡れない。父親が商人、私

と「笑い」の講義を受けた。自分が持っている全てを捨て去れば何でもない。「バカになった時に大物になれる」と言った母親の言葉を思い出し、経験と熱意で人の役に立つ事を考えた。真剣に相手の

世代に伝えて 幹事から平成へバトン



今年の総会にも、全国から多数の同窓生の皆さまにお集まり頂きありがとうございました。当番幹事として御礼申し上げます。諸先輩方のご指導を頂きながら、同級生皆が頑張ってくれたおかげで今年度総会を無事終える事が出来ました。

平成23年度の鯉城同窓会は、「瞬間くいま」をテーマに活動しています。二木会が50周年を迎えた「いま」同窓会の更なる発展に向け、卒業生それぞれの「瞬間」(いま)を紡いでゆきたいとの思いで活動させて頂いております。

また、我々昭和63年度卒業生は、昭和最後の卒業生です。幹事年の今年、様々な事を先輩方に学ばせて頂いております。その、先輩方に教わった「昭和の出来事」を、「母校の歴史」を平成の世代、次の世代に「くいま」



鯉城同窓会に永年多大な貢献をされた昭和7年卒の山崎芳樹さん。感謝状と花束が贈呈されました。これからお元気でいらして下さい。



叙勲を授けられた9名の方々。梶川氏、西谷氏、森野氏、梶矢氏、山縣氏、竹本氏、前田氏、津田氏、原田氏。感謝状は鯉城蹴球団へ贈呈された。



母校在校生の活躍。今年は、創部100周年を記念して、サッカー部の現役生徒が登壇。過去の映像も交えながらインタビューに答える。



昭和30年卒のテーブル。男性陣も女性陣も、まだまだ意気揚々。ご活躍の様子うかがえます。



来年度から平成卒の幹事達。母校の精神を受け継ぎつつ新しい風を吹かせてくれることでしょう。



鯉城蹴球団創部100周年。その歴史と重みを記念誌に託すサッカー部のOB達。「HF」のユニフォームは輝かしいですね。

“瞬間” いま

昭和最後の卒業生幹事

昨年「鯉城同窓会を建設しよう」との八木会長の公言通り決定事項・詳細を説明。役員も真剣な面持ち。



恒例の総会ではあるが、永年ご出席の昭和10年代卒の大先輩の方々。これまで歩んでこられた道を是非語って欲しいものです。



今年は日本にとって大惨事が起きました。試練の時代。そんな時、皆が集まって心を一つに「絆」を再確認出来る瞬間です。



同期が肩を組めばあの頃の青春が蘇ってきます。「今またここに青春あり」と。現在もご活躍な方々の笑顔は素敵です。



今年映画「ひろしま」が再放映された。映画の中で一中・国泰寺の校章が刻印。当時の生徒の魂が忍ばれた。平成卒へと伝えたい。



乾杯の音頭をとる卒業50年を迎えた昭和36年卒のみなさん



昭和63年卒 代表幹事

葭川 裕二

世代、次の世代に... 「いま」を生きる世代としても、つなげていく気持ちを持って歩んでいきたいと思っています。
総会を終え、卒業から23年後、人生の折り返し地点で、この様な素晴らしい経験、思い、同級生との更なる再会と絆、思い出と出発点を見出して頂きまして同級生一同、感謝の思いでいっぱいです。
在学時代を回想し、「いま」の時代に照らし合わせながら、その時代を思い出し、語り合い「いま このとき」をまた必死に生きていこうというすばらしい気持ちにさせて頂いておられます。
我々昭和63年度卒業生一同、これからも、鯉城魂を胸に刻み、同窓会発展の為に頑張ってまいりますので、よろしくお願い致します。



ピアノの生演奏で校歌斉唱された。いつもとは、ひと味もふた味も違う。味わい深い音色を奏でました。

映画のモデル
1945年8月の回想は「一中」
1953年当時の舞台は「国泰寺」
映画には、皆で肩を組み「鯉城の夕べ」を皆で歌いながら皆で一緒に動かしあっている光景も描かれています。
帽子には「一中」の校章
詰襟には「国泰寺高校」の校章

私の近況

GANBARISM

昭和23年卒 上村聖壽

去る三月十一日、東日本大震災に襲われました。恩生は、広島一中「二三会」の会員で現住所は、青森県八戸市に在住しております。

この大震災の直後は電話等通じませんでした。三、四日後から電話も復帰して、同級生からも電話や、手紙による見舞を頂けるようになってきました。

友人から懐かしい声の電話がありました。被害状況の質問や報告の後、「なにか不自由なことないか、あれば遠慮なく言ってくれ送るから。」

なんと素晴らしい言葉だったか。広島一中卒業して六十余年経っているのに不自由しているものがあれば送ってくれるというのだ。

友人とは有難いもんだと感じた。その他の友人からは見舞の手紙が、三通届いた。何度も読んだ。山口県・千葉県の友人からもきた。

拙宅は、いささか高地に在るため、津波については心配ありませんでしたが、地震は、震度、九ですから、今迄にな

く揺れました。

洗濯の支柱棒につかまって夫婦でしのぎました。テレビは2台倒れてました。

しかし、テレビや報道は福島原発のことも加わり、友人達は広島原発の先輩としてか気にして下さり、いろいろ高配を賜りました。

福島原発はこれからが、正念場だろうと思つて苦慮しております。放射能相手ですから。

今回また「二三会」の友人から命題をもらいました。生涯忘れられない言葉です。

「なにか不自由なことはないか、あれば遠慮なく云ってくれ送るから。」

誇りある広島一中魂の「生きてる友情」のあかしをここにみました。

鯉城同窓会報の紙面をお借りして友人にお礼を申し上げ、諸兄に報告を申し上げさせていただきます。

(青森県八戸市桜ヶ丘)

昭和24年卒 横繁隆寿

本年3月、中国電力48年、

広島綜警8年の勤務を卒業し、晴耕雨読の隠居生活をしております。植物探訪、歴史探訪や文化講座などに参加して、あちこち出歩いたり、畑で花や野菜づくりに汗を流したりしています。植物は毎年決まった季節に花を咲かせ、風雪に耐えた森の樹木は泰然と生きています。そんな変わることもない植物たちの姿はやすらぎを与えてくれます。

気が向けばこれまで積ん読してあった本、「ふしぎの植物学」田中修、「世界の野菜を旅する」玉村豊男、「世界はわけてもわからない」福岡伸一、「歴史を学ぶということ」入江昭、「武士の娘」杉本えつ子などを読み頭の体操もしております。

ゴルフは月2回程度ですが筋力の衰えが飛距離にはつきりと表われます。頭のボケも始まり、人の名前が出てこなかったり、同じ本を二冊も買ったたりして苦笑しています。

最近友人、知人の訃報が伝わってくることも多く、良寛さんの「なにごともみな

昔とぞなりにける花に涙をそそぐけふかも」の心境です。今後ともこれまでの縁を大切にしながら、できるだけ美しい自然の中に身をおいて一日一日を愉しんでいきたいと思っております。

(広島市安佐北区)

昭和24⑤卒 寺島洋一

定年退職に間に合うように家をつくり、十八年ぶりに広島に帰ってきた。墓参して驚いた。横にできた墓誌に、長男の兄夫婦の名前が赤字で入っている。私が入る墓ではなくなった。墓も核家族化した。

息子が墓に入らなくてもいい、自然葬があると言った。「葬送の自由をすすめる会」を知って入会。海に散骨することにした。「有終会」の回想記が出た。山田孟君(癌患者の終末医療に取組んでいた)の文章を読んで、尊厳死の講演を頼んだ。尊厳死は自然葬につながっている。彼は一年後、癌でなくなった。

人生の店じまいをはじめた。残した書籍は二束三文にもならない。四十年近い家裁調査官時代の専門誌(非売品)等を全部、少年法専攻の某大

学教授に寄贈した。

終身編集長を買って出て、総合文化情報誌「地平線」を復刊した。二十年つづけたが、五〇号をキリに終刊した。

「瀬野郷土史会」の編集だけは続けよう。考古学をやりたいと言つて父に反対されて経済学部ですんだが、やったのは百姓一揆の研究だった。郷土史の謎解きを、もう少し追っかけてみよう。

(広島市安芸区瀬野)

昭和31年卒 加藤晟子

卒業以来全くの御無沙汰でしたので突然の近況報告依頼に驚いています。大学入学以来東京での生活を送り、昭和49年渋谷区千駄ヶ谷に産婦人科を開業、子育てをしながら何とかやっております。その娘も千葉大を出て現在北里大麻酔科に勤務しており、主人は精神科医として企業のメンタルヘルスケアを行っております。

私は10年前に診療所を閉め

私の近況

GANBARISM

現在六本木ヒルズの近くのクリニクに週3日勤務していますが加齢による頭脳と身体の衰えを感じています。最近膝や腰の不調感が強く長年やっていた趣味のゴルフもギブアップし、今は森林浴や山歩きに楽しみを見出していきます。

これからは検診（特に若年者の子宮癌、乳がん）に力を注ぎ早期発見に努めようと思います。これまで自分なりに一応納得できる生活をしてきましたが、人生の残り時間も少なくなってきたので、この状態がもうしばらく続けられればと願っています。

(東京都渋谷区)

昭和31年卒 大多一彦
 昨年9月、50年ぶりに広島へ帰ってきました。入社して最初の赴任地が高松で、10年勤務。その後松山に3年勤務して、東京本社へ転勤となり、定年まで25年丸の内に勤務しました。ビジネスセンターでの多忙ながらも充実した仕事一筋の生活でした。
 定年後移り住んだ高松の12

年は、「さぬき」の風土を大いに満喫しました。故郷は遠

きに在りて想うもの：そんな長い生活から、故郷広島に住

ベートーベンもびっくり

昭和35年卒 藤井清包
 本校を卒業して52年今年で古希を迎えました。最も思い出深いのは周年行事です。

周年行事は建学80年、100年、120年の三回行なわれました。

私は80周年を高校二年の在学中に、100周年を定時制の教員の時に、120周年を全日制の教員の時迎えました。そして、120周年では「ベートーベンの第九」をコーラ



その後、白木高校教頭を最後に退職し、私学に六年間勤め、現在は観音高校に勤めて四年目になります。平日五日間は勤務をし、土曜日は国泰寺十一期生の囲碁会で碁を打ち、日曜日は小五の孫の家庭教師として算数を教え、充実した日々を送っています。私の健康法ですが、毎日スーパージョに通い、サウナで汗を流し、電気風呂で全身マッサージをし、おいしいビールをおいしく飲む、これに尽きます。

(広島市佐伯区海老園)

み、その良さを味わいながら生活できることを、とても喜んでいきます。確かに、心落ち着くものがあります。西条に住んでいます。名実ともに広島県人になりました。これからもよろしく願います。

(東広島市西条)

(東広島市西条)

昭和36年卒 尾田豊機
 母校を卒業して五十年経過し、古希が、目の前に迫った年齢になりました。二人の娘は嫁ぎ、妻と二人暮らしの生活です。

広島市の北部に位置し、安佐動物公園に隣接する団地に入居して三十五年になります。入居当時は、農協が造成した緑豊かな大規模団地というので、全国から大勢の見学者が来ていました。

35年が経過した現在は65歳以上の高齢化率25%の少子高齢化団地です。

5年前より地区自治会、連合自治会の役員をさせていたでいています。

これまで一団地住民であった自分からは見えなかつた色々な問題点があることに気が

付きました。地方の社会問題を凝縮した団地です。

運動会、納涼大会、秋祭り、神楽公演会、とんど等のイベントを通じて若者たちが、特に団地で生まれ育った息子さんや、娘さんが、お孫さんを連れて移り住んでくれるような環境づくりに励んでいます。サラリーマン現役時代は、時間が取れず何もできませんでしたので、現在は地元で団地に少しでもお役に立てばの思いで、頑張っています。これらの活動の合間に趣味のゴルフ、瀬戸内海での釣り、猫の額ほどの畑で野菜作りなど楽しんでいきます。

特に楽しみにしているのが、三六会（みろくかい）昭和36年卒の同期会）の仲間達と年数回のゴルフや、懇親会などでの再会です。おい、おまえなどの会話が飛び交い、昔にかえっての時間は、心身共にリフレッシュしてくれま

す。

今年の鯉城同窓会では、卒業後50年生の私達がステージに上がり乾杯の行事が予定されているとのことで、皆様と

私の近況

GANBARISM

の再会を楽しみにしていま
す。

(広島市安佐北区あさひが丘)

昭和42年度卒 高地成子
私は、現在特別養護老人

ホーム百楽荘に勤務していま
す。この道に進んだのは、私
の友達の紹介でした。私には、
短大卒業後就職が決まってい
ましたが、友達の義兄の経営
する施設に職員が必要で困っ
ているとの言葉に、迷い迷っ
たうえ山根町にある寿老園に
就職致しました。

結婚して仕事を離れていた
のですが、近くへ施設が出来
経験もある事から、すぐ採用
して頂きました。早33年にな
ります。この間介護福祉士、
介護支援専門員認知症対応型
サービス事業管理者の資格、
実習指導者の資格も取得させ
て頂きました。

友達との出逢いがなかった
ら私は違う道を生きて来てい
るかも知れません。私を導い
てくれた友、私を育ててくれ
た施設に感謝で一杯です。そ
のお礼に良い介護士を育てた
いと思っています。私の先生

は、お年寄りの方なのでもっと
もっと教えて頂き、私も良い
人生を生きたいと思っていま
す。お年寄りの方と話をする
のを毎日楽しみにしていま
す。

(安芸高田市甲田町)

昭和43年卒 中村愛子
(旧姓 佐々木)

早いもので高校を卒業して
43年になります。改めて計算
してみても自分でも啞然とする
ほどの年月に歳を感じざるを
えません。

縁あって同級生と結婚する
ことになり担任だった前田英
治先生に媒酌をお願いしたと
ころ驚きながらも快くひきう
けていただいたのがつい昨日
のような気がします。その前
田先生もお亡くなりになって
もうすぐ10年を迎え月日の流
れに寂しい思いさえします。

主人の仕事を手伝いながらの
子育てが終わりかけた40歳過
ぎに運動音痴の私がゴルフを
始めました。それが今では
すっかりはまり、娘から「孫
の面倒よりゴルフなんていう
爺婆はちよつといないよ」な

んていわれる始末。お世話さ
せていただいている高校同期
ゴルフコンペ「4つて3ん会」
も春と秋の年2回開催で今秋
32回目を迎えることができま
した。14・5人集まって和気
あいあいと昔に帰って楽しく
やっています。ゴルフをされ
る同期の方に一人でも多くご
参加いただければと願ってい
ます。健康に感謝しながらこ
れからも日々笑顔で過ごせる
ように、そんなことを願って
いる今日この頃です。

(広島市中区八丁堀)



昭和44年卒 岩田法子
退職後、現役時代に関連し
た活動を少ししましたが、別な
ところに自分らしい生き方、

やつとみつけた。現役時代に
はないゆつたりとした時の流
れに身をおくと、昼間の街に
は、障害を持った方々や高齢
の方々が歩いておられまし
た。社協で自分のできる事を
調べ、視覚障害者のガイド、

中途失聴者の要約筆記、孤独
な高齢者の話を聴く大切な役
がある事を知った。

基本を学んで、それぞれの
サークルに加えてもらい、少
しずつ活動をしています。障
害や高齢の人達と関わること
で、心優しく、自分をしっか
り持った人達であることを知
りました。又、支え合うサー
クルの人達は、暖かく寛大に
忍耐強く活動されています。

私は、視覚障害者コーラス
グループに加入し、発表会目
指して練習したり、中途難聴
の人達と工場見学に行き社会
参加への意欲感じたり又老人
ホームで孤独な人とゆつくり
関わる等、少しずつ無理をし
ないで、良き隣人を目指し
て、継続していききたいと思っ
ています。

(広島市安佐北区三入南)

昭和44年卒 田中泰恵

私の青森での生活は、もう
すぐ40年になります。当初の
カルチャーショック(雪の多
さ、習慣の違い等々)は大き
く、「ヘエ、そうなの」と驚
くことが多かったものです。

結婚・子育て・仕事をこなし、
現在は短大講師として教鞭を
とりながら、青森ならではの
生活を楽しんでおります。

家庭菜園歴は35年。野菜自
給率80%程(さすがに米やり
ンゴまでは手が出せません)
です。減農薬栽培をしようと、
夏場は虫や草との戦いの日々
です。10月は玉ねぎとニンニ
クの植え付け、11月は、大
根・白菜など冬野菜の収穫と
藁積み。勤労感謝の日は、例
年、雪の舞う中で畑仕事終了
です。

最近の楽しみは、五年目を
迎える味噌作りです。大豆は
地元産「おおすず大豆」、二
月中旬、ストープで大豆をコ
トコト煮て潰し、米麴・塩を
混ぜ、樽に仕込みます。夏に
天地返しをして11月頃から食
べ始めます。

先日、今年の味噌を出しま
した。味噌の香りが台所をふ
んわりつつみ、朝餠を一層豊
かにしてくれます。

(青森市駒込)

昭和45年通卒 矢野義雄
突然の「鯉城同窓会」原稿

依頼は有難く又、恐縮致しました。

中学卒業後、直ぐ就職して数年過ぎてから、母校「通信制課程」の門を叩きました。

「東洋工業」(現「マツダ」)に勤めながら、勉強や活動と両輪で歩み始めたことになりました。夜勤等も有りましたが、無事に4年間で卒業でき、思



えば、先生方の熱意と学友達との励まし合いが、プラス思考になったと思います。

現在の近況ですが、会社勤めしながら唄っていた25年間は基本となっています。それらを生かすべく、6年前にリ

リースした、オリジナル曲で「瀬戸内恋唄」、4年前の「愛してひろしま」の楽曲は、人生の応援歌として通信カラオケでも唄って頂いています。

「長い道のり がむしやりに歩き続けて ふと立ち止まる」

「養護慰問・各イベント・フラワーフェスティバル」歌で心を通わせ、訴え、これからも精進して元気を届けたく、歌手活動を歩みたい。
(広島市中区舟入幸町)

昭和48年卒 友清洋子 (旧姓 三宅)

卒業して38年近く過ぎ、話題は年金や介護の年齢となりましたが暇のクラスメートの皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今年は震災に始まり気象異常、不景気と暗いニュースが続く一年でしたが、私は数年前から始めた声楽のお蔭で日々を何とか前向きに生きる事が出来ました。東京二期会のプロからの厳しい指導に涙しつつ腹式呼吸の為に骨盤フィットネスや整体に通い、

ひたすら吐いて吸ってを鍛錬の日々。お蔭でイヤな事は忘れ気持ちは前向き、体力強化で家事や料理もバッチリで有難い。

主人に(45年度卒)「お前、声だけ聴いてると年齢不詳だな」と軽口をたたかれ、おめでたい私は「若い？」と自画自賛。苦しい一年だったけど歌と共に来年は日本中、世界中が少しでも明るい一年になって欲しいです。そしてあの日原爆で亡くなった旧一中の生徒達の魂へも深く祈りを捧げたいのです。
(熊谷市万吉)

昭和50年卒 小川伸夫

「ぼれえ(とても)」「きょーてー(怖い)」。こは広島県内かと思うほどの方言の違いにびっくりします。流ちょうに、しかも早口。聞き取れないこともしばしば。すると、「安芸のもの

は、じなくそじゃ(しようがない)」と突き放されてしまいました。福山市に今春、単身赴任しました。出先勤務は4回目です

すが、福山暮らしは初めて。正直なところ、これほどまでに福山弁とあけすけに出合えるとは思っていませんでした。方言は親近感を持たれた証

し。こう受け止めたいのです。が、どうも事情は違います。根底には広島への意識が流れています。安芸とは違う備後。その中核たる福山市は...となるわけです。

ただ、住んでみて、備後人と話してみても県西部中心な施策、広島偏重のニュースなど反発にうなずけるところもあります。「おみゃー(おまえ)、うみゃあこと(うまいこと)言うのう」。間もなく染まるでしょう。
(広島市東区)



昭和51年 佐藤真規子 (旧姓 市杵)

中学校教諭として30余年。

今も合唱コンクールには熱くなる。生徒の歌声の弱々しさに、担任として思わず吠える。(なぜ吠えないのか。)

前年の雪辱をはらすため、高校3年の合唱コンには力が入った。そして優勝。男も女も感涙。(自分が浸った感動を味わってほしいという思いは、押しつけか...)

文芸部で、地元の家原民喜を取材し、舞台発表した。本番開始の瞬間、顧問である恩師が、大声で「待った!」をかけた。マイク不調の中ではだめだ。積み上げたものを十二分に発揮せねば、という情熱からだ。このことも私の奥底で踏みしめられた土のように、ある。(私は、凜として立っているか。)

力一杯跳ぶ応援団のリードで肩を組んで叫んだ『鯉城の夕』。むしろ今の私にこそ、この応援歌が必要なのではないか。深いところで自分を奮い立たせるもの。心のアルバムの中にそれがある。

今年10月。担任している子らが優勝。もらい泣きした。(呉市郷原野路の里)

私の近況

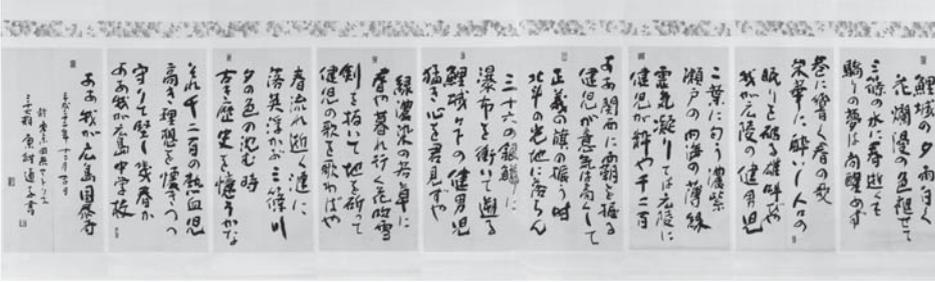
GANBARISM

会場圧する現代書

広島で2回目の個展

原紺乃華さん
昭和37年卒

多彩な表現力で独特な書の世界を展開する原紺乃華さん



「鯉城の夕」の大作

(昭和37年卒)が、今年も広島県民文化センターで11月22日から26日まで個展を開催。12回目の個展だが、広島での開催は昨年続き2回目となる。

会場入り口には我々同窓生には魂ともいえるべき「鯉城の夕」を一番から8番まで独特の筆致で書いた大作が目を見わたす。いずれの作品も書を越えたといえる超大作ばかりだが、彼女の人生観や宗教観に裏打ちされたものばかり。「組曲 広島」や禅の世界を表現

した「百尺竿頭、一步を進める」など見る者を、原紺アートの世界へ引き込み、その迫力に圧倒される。

13回目の個展は生まれ故郷福山市立美術館での開催を予定。

四期生が喜寿の会

全国から45名参加

昨年鯉城同窓会で25名が出席したが、その席で今年喜寿をむかえたのでこれを記念に久しぶりに同期会(前会平成



4期生 喜寿の会

15年)を開催してはとの声が上がリ、原君を実行委員長として準備を進めることとした。何人参加するか一抹の不

安はあったが10月27日午後4時集合 場所は宮島グランドホテル有もで行なうこととした。

春から、幹事10名位で再三打ち合わせをしてきた。住所が判明する約200名(卒業生302名)に案内をし、出席回答が51名ありホッとした。最終的には45名(男29名・女16名)が参加した。宴会は午後6時から、校歌斉唱で始める。

参加者全員が、近況を語り、高校時代の思い出話や、カラオケなどで旧交を温めた。北九州からは済生会病院の副院長を卒業し、ゴルフを楽しむながら老人病院でドクターをしている佐々木君から日野原重明先生に見習う長寿の秘訣を聞き、松山市から参加した高島さん(昨年7月、夫死去)からは、端切れを活用する小物づくり等をブログで公開教示し、生き甲斐を見つけている話、同期会に初めて参加した朝永君が理論物理学者朝永振一郎の甥であったことを初めて知った。

昭和37年卒 原紺 乃華 (旧姓 高橋)

私は子供の頃から夢ばかり追っていた記憶があります。れんげ畑に寝ころんで、いつかあの大きな鯉城を建てて、白馬に乗って大空を走り回ってみたいと思っていました。「銀河城物語」昨年作品として書きあげました。

さわやかな朝の朝、きぼうにあふれる、たびをしている、待ちきれないよ、さあ、いこう、おしゃべりしながらいこう、君も仲間さ、助けあうんだ家族になろう、と物語は始まり、旅の途中で空の菩薩に次々と出会います。

聖観音、十一面観音、阿弥陀如来、文殊菩薩、馬頭観音、不動明王、観世音、孔雀明王、地藏菩薩、花園の菩薩

薩たちは弥勒仏二体、如来二体、菩薩二体、夢違観音二体、そして物語は戦場へと進みます。

火宅、戦場、雪がふる、ゆき、雪ゆき、雪がふる、雪に包まれて生きる、泥水をすくって飲む、戦場の交響曲、神様からの贈り物、赤い夕陽、私の歩いた人生です。

流した涙は一粒一粒光を放って、キラキラと、今ふるさとに輝く。無量寿如来、空には「にじいろのうさぎ」がいましたよ、私は「永遠の子供」です。

初窓、美しい来完、で物語は終わります。

書の歴史に圧倒されて、書作家への道を進みながら、同時に白隠禅師、道元、空海、お釈迦様に人間としての道

を尋ねることを通して、活動が続けました。どこからでも吸収し、何からでも体得出来る自分を確立する。無形の宝を積み重ねていくことで、結果的に有形の宝も生み出されていく。この生み出された有形の宝に執着せず、更に無形の宝を積み重ねようと努力をする。これを常に天が見ている。

子供の頃、祖母が毎日口にしていた言葉「お天道さまが見ている」苦しい時にはいつもこの言葉を思い出しました。

「出会った人総てが師です」と言われたお釈迦様、そんな慈悲の中でここまで歩いて来れました。皆様本当にありがとうございます。

(東大和市在住)

閉会後は、幹事の大部屋に30名ばかりが集まり、12時近くまで話が弾んだ。話題の中心は、高校時代水泳部で平泳ぎのドルフィンキック泳法で高校新記録を樹立し、オリ



一中や国泰寺の帽子をかぶった生徒が多く登場する



「ひろしま」は一九五三年の製作。製作当時、「残酷な場面が多過ぎる」と大手配給

被爆直後の惨劇を描いた映画「ひろしま」が10月、広島市中区の八丁座で一般公開され、大きな反響を呼んだ。

「ひろしま」は一九五三年の製作。製作当時、「残酷な場面が多過ぎる」と大手配給

べ9万人が出演したことでも話題になった。被爆直後の惨劇を「親や教師が、子や生徒を必死で守ろうとする姿をセンチメンタリズムを排して描いた」もの。先日、亡くなられた大先輩、元東映名誉会長の岡田茂さんの初めてのプロデュース作品でもある。

一中・国泰寺高生徒が多数出演

58年ぶり映画「ひろしま」

ピックを期待されたが、泳法が禁止され、実力を発揮できなかった中沢潔君が毎日新聞の大相撲担当記者として活躍し、最近ではジャーナリストとして日本テレビに登場している、彼から土俵の裏話、特にこの春発刊した「大相撲は死んだ」と言う相撲界の体質

(八百長)等興味のある話を聞いた。又、小説家として20冊近い本を書いている立石優君からは、小説の執筆方法の話、特に女性群が熱心に拝聴していた。彼は昨春秋、NHKの大河ドラマ「坂の上の雲」に登場する人物、秋山真之他6名の「明治人物伝」を書いて

当初、今回が最後の同期会となると思って企画したが、傘寿もやったらとの声が上がると、誰が元気で旗振りするか、言うわ易し、行なうわ難し。明るく幸せを味わえる集いであった。感謝！感謝！

昭和28年卒 花岡 哲

平成22年度決算報告書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

I 一般会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	5,774,627	会報費	1,899,652
入会金	1,002,000	水道・光熱費	39,259
終身会費	4,046,000	事業費	216,041
年会費	51,000	慶弔費	50,026
寄付金	363,000	人物録作成費	79,120
利息収入金	357,567	会費請求システム維持費	86,800
50周年CD販売入金	20,000	助成金(二木会)	900,000
雑収入	29,310	事務費	394,600
総会・二木会余剰金	600,000	消耗品費、雑費	88,130
		印刷費	89,060
		通信費	204,592
		会議費	116,902
収入計	12,243,504	教育振興会計へ繰り入れ	415,882
		慰霊碑献花代	36,225
		事業特別会計へ補填	0
		次年度繰越金	7,415,635
		支出計	12,243,504

II 基金予算

1. 鯉城同窓会基金

2. 教育振興基金

(単位：円)

(単位：円)

前年度繰越金	82,000,000	前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	82,000,000	次年度繰越金	16,500,000

III 教育振興特別会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
利息収入	0	全国大会出場助成金	500,000
他会計より繰り入れ	560,000	クラブ活動助成金	60,000
収入計	560,000	支出計	560,000

IV 事業特別会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
食堂、自販機等手数料	1,699,127	事業費	600,000
収入計	1,699,127	水道・光熱費	158,271
		電話利用料、雑費	79,138
		税金	217,600
		教育振興会計へ繰り入れ	144,118
		東日本大震災義援金	500,000
			1,699,127

巨星墜つ 岡田 茂氏が死去

鯉城東京同窓会長 東映の名誉会長



鯉城東京同窓会長で東映の名誉会長の岡田茂氏（昭和17年卒）が5月9日、肺炎のため東京都内の病院で亡くなられた。東広島市出身で87歳だった。

東京大卒業後、東映前身の東横映画に入社「日本戦歿学生の日記 きけ、わだつみの声」や10月に広島で58年ぶりに一般公開された「ひろしま」など数々の名作をプロデュース。鶴田浩二さんの「人生劇場」、藤純子さんの「緋牡丹博徒」、広島島の暴力団抗争を描いた「仁義なき戦い」など数々のヒット映画

を生み出した。

岡田氏は71年から93年まで社長を務め、会長、相談役を経て06年から名誉会長。広島県人会活動にも力を入れ、94年に会長に就任。会員数を倍増させた。鯉城東京同窓会長には94年に就任、面倒みの良さで慕われ、「偉大な先輩を失い残念の極み」と惜しまれている。

270名が参列 一中慰霊祭

被爆から66年。7月24日、母校一中慰霊碑前で、原爆死没者慰霊祭が、関係者約270名が参列してしめやかに営まれた。式典は、昭和63年と平成元年の卒業生によつて進められ、大下国泰寺高校長、八木忠士同窓会長、實田泰佑国泰寺高校友会長の追悼の辞には

を迎えられます。ただいま四作目を執筆中です。

編集後記

「絆」の大切さが見直された平成23年。今年の漢字にも選ばれました。同窓生の絆の拠点、待望の同窓会館が現実になりそうです。これまでも、創立100年、120年と節目ごとに建設構想が浮かんで消え、浮かんで消え「幻の会館」になっていきましたが、今度こそ同窓生のシンボルが誕生します。

全国制覇3度を誇る古豪HF。鯉城蹴球団が創立100周年を迎えました。日本のサッカー史上に燦然と輝く足跡を残すとともに、数多くの人材を輩出してきました。今年もベスト4目前、PK戦で涙を飲みましたが、今一度、HFの勇姿を国立のピッチで見せてほしいものです。（伊藤）

HFサッカーマン列伝 鯉城蹴球団百年誌発行

鯉城蹴球団は、百年の歩みを詳述した「鯉城蹴球団百年誌」を発刊した。

A4判、225ページの百年誌はスクールカラーである紫の表紙に、「HF」マークを浮



鯉城蹴球団が発刊した「百年誌」

立たせた。全国高校選手権優勝旗の「広島一中」ペナントなどグラビア写真に続いて、「100年のあゆみ」は第1章戦前編、第2章戦後編、第3章鯉城サッカーマン列伝、巻末に歴代指導者や年表を収録した。

新刊紹介

戦前編は年代ごとの活動を記述し、戦後編は年度ごとのキャプテンらの寄稿で構成。列伝にはエピソードをふんだんに盛り込んだ。他に類を見ない充実した内容となった。

鯉城蹴球団記念式典や鯉城同窓会総会で発売（七千円）した。

「生きる道すがら 真理に出会う」

旧職員 石川幸子

石川幸子先生が、三冊目の本を出版されました。掲載にあたり、先生の解説を頂戴致しました。先生は今年、卒寿



「私達の言葉、行動、思想の原動力は、個々が持っている思いやりの心、慈悲の心で、この心は、宇宙から連綿と流れている。愛と調和のエネルギー体である、素粒子の生命波に依るものと言われている。この流れの中にある私達は目に見えない素粒子と交流し顕

<石川先生の思い>

在意識の根源である思いやりの心、慈悲の心を育んでいる。宇宙に広がる素粒波動と相互連係が出来れば、その中に視界が広がり、ほのぬくむ永遠の世界に感応し、生かされている自分気づく。死は生と表裏一体である。命を輝かせる瞬時瞬時でありたい。」